

2 ワールドカップサッカーを通して国家の形成について考えた授業展開例

教科(科目)	地歴公民 (世界史 B)	単元名	第 6 章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立	本時 (1 時間目 / 6 時間)
本時の主題	「ヨーロッパの風土と民族・国家」を調べ学習をとおして理解する			
本時の目標	<p>(1) サッカー・ワールドカップを題材に各国の諸要素を調べる学習により、具体的事例をとおして、現在の世界の諸地域の事象が歴史的に形成されたものであることを理解し、また、諸地域社会の歴史と相互の交流・結合の歴史から世界史の大きな流れを理解する。 【知識・理解】</p> <p>(2) 世界的なイベントやスポーツ行事など身近な出来事をてがかりに、歴史的事項に自ら取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】</p> <p>(3) ヨーロッパ諸国を中心に、国家の形成に関して、民族、宗教、言語等の相違が重要な要素となっていることについて考察する。 【思考・判断】</p>			
指導のねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
導入 (5分)	1 サッカー・ワールドカップ日韓大会について 2002年のワールドカップの本大会予選グループ分けについて理解する。		・身近な出来事から歴史の学習を考える素材を見つけることができることを理解する。。	
展開 (40分)	2 調べ学習の説明 グループをつくり、調査項目について説明する。 ・正式名称 ・首都、人口、面積(日本との比較) ・旧宗主国 ・GNP、一人あたりのGNP(日本との比較) ・言語、民族、宗教 ・政治社会、産業 ・有名な観光地・特産物 調べ方や本の選び方などを説明する。		・調べ学習を通して歴史などさまざまな事に関心を持たせる。【関】 ・今後の歴史の流れの中で言語や宗教を通して他国と関連する内容が多くあることを気付かせる。 ・歴史的事実の調べ方のポイントや本の利用の仕方を指導する。 <評価方法> 机間指導による生徒観察	
	3 調べ学習の実施 それぞれの項目を調査する理由を簡単に説明する。 (図書館でインターネットや図書を使用する)		・各項目についてグループごとに簡単な説明を加える。 ・全員の生徒がそれぞれ分担をして調査するように指導する。	
	4 ワークシート作成 各グループごとにワークシートにまとめさせる。 日本の人口や面積などを参考にしその値と対比できるようにする。 発表項目を抽出して、いくつかのグループが発表する。 ・ヨーロッパの言語・民族の分布に注目させる。 ・中南米とスペイン・ポルトガルについて注目させる。		・日本とのつながりを捉えて知識を深める。 <評価方法> 机間指導による生徒観察 【知】 発問・発表	
次回の予告(5分)	5 本時のまとめと次回の予告 次回の発表の予告		・調べ学習の結果で何がわかるかを予想させる。【思】 <評価方法> プリント提出	

注1

注2

注3

注4

注5

注6

注7

注8

<指導上のポイントと考察>

昨年日本と韓国でワールドカップが共同開催された。開催日にはテレビや新聞などでワールドカップの記事が多く報道された。また、体育の授業でサッカーを行っていることもあって、サッカーには多くの生徒が高い興味・関心をもっており、それを授業へ利用する展開を考えた。

ワールドカップは世界32か国が出場して優勝を争う世界規模のスポーツの祭典である。それはオリンピックよりも大規模であるともいわれている。特に民族も宗教もさらには経済規模も大きく違う国々の成立やその伝播などを考えるとサッカーの発展の歴史などはテーマ学習にはうってつけであり、各単元の導入の部分としても、「世界史への扉」としても十分に使用できる教材だと考える。今回はサッカーの発祥であるヨーロッパの単元でこの教材を取り入れ、民族や宗教の国による違いやその成立の背景や特徴に目を向けさせたいと考えた。

- 注1 普段は講義中心の一方的な授業になることが多いので、生徒自身の目でいろいろな教材を探し出し、見つけ出し、捉え出すようにさせたいと考えた。さらに地理や政治・経済などにも興味・関心を持たせたいと考えた。
- 注2 ヨーロッパ世界において、宗教や民族の違いが戦争や国家の成立など今後のヨーロッパのみならず世界の歴史を大きく形作っていくことに目を向けさせたい。
- 注3 短時間の間に効率よく調べ学習ができるよう指導する。
- 注4 机間指導をしながら調べ学習の進捗状況や生徒の理解度を確認し、次時の授業に反映していく。
- 注5 グループ内で特定の生徒だけが調査をすることがあるので、全員で調べ学習を行うよう指導する。
- 注6 日本との比較を常に行い、理解度を深めるだけでなく、民族性や宗教観の違いなど様々な点において生徒が思っているヨーロッパ社会との違いをとらえることができるよう指導する。
- 注7 ただ調べるだけでなく、生徒同士が話し合い、自己主張できる時間をとった
- 注8 個別のデータを結びつけることによって、事柄に関連性があるという歴史的思考力を身に付けさせるよう指導する。

調べ学習の調査方法・内容とその視点

- 調査方法・・・ 図書館において5～6人のグループを8つ作り、リーダーを無作為に決めそれぞれ予選ブロック別に調査を行わせた。但しグループは女子ばかりだと試合結果予想などチームの分析ができないこともあったため、男女混合のグループにした。(男女の配分はそれぞれグループによって違う。)
また、自らが資料を選定した方が、教師が手助けを多く与えるよりも有益であると考え、参考資料となりやすい本の位置や内容をわずかに説明するだけにとどめ、生徒の自発的な調査意欲の高揚を促すように心がけた。なお、調査時間は1時間とった。
- 調査内容・・・ 正式名称、首都、人口(日本との比較)、面積、旧宗主国、GNP、言語、民族、宗教、政治社会、産業など、有名な観光地・特産物など比較がしやすい基礎的な事項に留めた。なお、生徒によるグループ別予想順位をつけさせた。
- 視点・・・ 今回、民族移動と国家の成立に影響を及ぼすような要因の調べ学習という授業展開としたが、今後の授業で大航海時代や絶対主義の成立、近代国家の成立を学んでいく中で必要と思われる内容が項目として調査できたと思う。
また、面積や人口などは必ず日本と比較をさせ、理解度を深める工夫をした。各グループ別で順位を予想するなど、ただ調べ学習を行うだけでなく、活動の中で楽しみを感じるができるように実施した。生徒は、予想順位を決めるときにお互いのファンのチームを言い合ったり、戦力分析したりして活発に活動をしたように思えた。

2002年 ワールドカップサッカーで見る世界の歴史

GROUP C

予選順位

調査員

	イラ	トル	中	コ
イラ		0	0	0
トル	X		0	0
中	X	X		X
コ	X	X	0	

正式名称	イラジール連邦共和国	トルコ共和国	中華人民共和国	コスタリカ共和国
首都	テヘラン	アンカラ	北京	サンホセ
人口(日本の倍)	151530000人(1.22倍)	46310000 (0.35倍)	1196360000人(9.4倍)	2200000人(0.03倍)
人口密度(日本の倍)	11人/km ²	45人/km ²	79人/km ²	31人/km ²
面積(日本の倍)	8512000km ² (22.5倍)	780576km ² (2.05倍)	9597000km ² (25.26倍)	51000km ² (0.13倍)
旧宗主国	イラジール帝国	オスマントルコ帝国	中華民国	スペイン・フランス
GNP(日本の倍)	5458億ドル	2822億ドル	891億ドル	115億6000万ドル
1人あたりGNP(2000年)	3587ドル	3007ドル	850ドル	3113ドル
言語	ペルシア語	トルコ語	中国語(北方話, 広東語等)	スペイン語 コスタリカ語(10.5%)
民族(系)	イラン系, アラブ系 アフリカ系	トルコ系	漢族(約90%), 少数民族 ウイグル系, チベット系, 苗族	メスティーソ(48%) コロンブス
宗教(派)	シーア派(約90%) スンニ派(約10%)	イスラム教(97%) + 正統派 キリスト教	イスラム教, 仏教, 道教, キリスト教, 道教	カトリック
政治・経済	国家権力は中央政府にあり 軍事政権	半大統領制 5年任期	社会主義	連邦制による単一制国家 一院制
特徴	世界で最も暑い国	地盤が固くして、地震が頻発 トルコ	土地が広大で 東部の豊穡	海沿いの都市がほとんど 中心
有名なもの・特産物	フーディーヤ(14%), 綿(10%) アザラン	ココア, チョコ, トウモロコシ イムズ, エンツ	絹糸, 石油, 小麦, 茶	フーディーヤ, コロンブス 1720のシロ・豆類

2002年 ワールドカップサッカーで見る世界の歴史

GROUP H

予選順位

調査員

	日	ベル	ロシア	コ	順位
日本		0	X	0	2
ベル	X		X	0	3
ロシア	0	0		0	1
コ	0	X	X		4

正式名称	日本国	ベルギー王国	ロシア連邦	コスタリカ共和国
首都	東京	ブリュッセル	モスクワ	サンホセ
人口(日本の倍)	1億2261.3万	1011万	1億4804.15	889万
人口密度(日本の倍)	327人/km ²	322人/km ²	9人/km ²	35人/km ²
面積(日本の倍)	37万2723km ²	33518km ²	1707万5000km ²	1653610km ²
旧宗主国	なし	オランダ	なし	フランス
GNP(日本の倍)	4兆789億ドル	2504億ドル	3225億ドル	199億ドル
1人あたりGNP(2000年)	3万2230ドル	254510ドル	2270ドル	2100ドル
言語	日本語	フランス語, 英語	ロシア語, ウクライナ語 他に多くの民族語	スペイン語(公用語) フランス語
民族(系)	日本人	70万人(フランス), 737万人 (オランダ)	ロシア人, ウクライナ人, ウズベク人	メスティーソ, ベルギー人
宗教(派)	仏教	カトリック	キリスト教, イスラム教	イスラム教
政治・経済	衆議院・参議院から成る 二院制	連邦君主立憲	二院制	一院制・直接選挙あり
特徴	季節の影が強く冬は寒い 火山活動が盛んである 茶, 米, 大豆	EUの本拠地がブリュッセルにある 西洋性が高い 豆類, 小麦, 石炭, 毛織物, 砂糖 ソーダ, 銅	1917年にソ連から独立 多種の言葉で構成 鉄鋼, 石油, 炭油, 食肉 機械, 水産物	国土の大部分が山岳地帯
有名なもの・特産物	和食, 着物	豆類, 小麦, 石炭, 毛織物, 砂糖 ソーダ, 銅	鉄鋼, 石油, 炭油, 食肉 機械, 水産物	石油, コロンブス, コロンブス

単元の目標

ビザンツ帝国と東ヨーロッパの展開、西ヨーロッパの封建社会、都市の発達と王権の伸張に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成、変動の過程を把握させる。

各時間ごとの内容

1 ヨーロッパの風土と民族・国家の形成		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
調べ学習のグループ分け テーマの設定 テーマについての調査とまとめ	サッカー・ワールドカップを題材に各国の諸要素を調べる学習により、諸地域社会の歴史と相互の交流・結合の歴史を理解する 【知】 世界的なイベントやスポーツ行事など身近な出来事をてがかりに、歴史的事項に自ら取り組もうとする。 【関】 ヨーロッパ諸国を中心に、国家の形成に関して、民族、宗教、言語等の要素について考察する。 【思】	机間指導により生徒の活動を見る。 机間指導 ワークシート提出 得られる結論を予想しプリントにまとめ提出
2 ヨーロッパの民族と国家に関する発表		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
テーマについての発表	各グループごとに報告書を利用して発表を行う。報告に関しては今回は前時作成のものを利用する。 【技】【思】	発表の評価表 (発表者、報告者とも) 自己評価表の提出
3 ゲルマン民族の移動とフランク王国の成立		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
ゲルマン人の大移動 フランク王国の発展とイスラームの侵入	ゲルマン人の活動などによって地中海世界が解体し、中世ヨーロッパの基礎ができたことを理解する。 【知】 フランク王国の成立がローマ教皇との連携により起こったことを捉え、その相互の発展にも目を向ける。 【思】	発問・挙手 古代から中世へ時代が移行したことをとらえる。 資料集や板書を通して2つの関係を理解する。 プリント提出
4 フランク王国の発展と二つの教会		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
ローマ＝カトリック教会の成長 カール大帝 分裂するフランク王国	キリスト教を共通の基盤としながらも、東西に分かれ、それぞれが独自の文化で発展してきたことを理解する。 【知】 フランク王国の最盛期を築いたカール大帝の治世の様子を理解する。 【知】 フランク王国の分裂と地中海世界の分裂について理解し、現代ヨーロッパ世界との関連について考察する。 【思】	東西のキリスト教の違いを理解する。 他の地域の中央集権体制と比較する。 プリント提出
5 ノルマン人の移動と封建社会の成立		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
外敵の侵入と西ヨーロッパの混乱 封建社会の成立	ノルマン人などの諸民族の独自の生活を理解する。 【知】 スラブ民族の進出と国家の成立について理解する。 【知】 日本の封建社会と比較し、契約重視のヨーロッパ社会の特質を考察する。 【思】	地図や写真によって理解を深めさせる。 プリント提出
6 ローマカトリック教会と西ヨーロッパ封建社会		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
教会の権威 まとめ	封建社会の成立から発展と教会との結びつきを理解する。 【知】 キリスト教と国家の成立などについてお互いの関係を捉えながら理解する。 【知】 ヨーロッパ中世社会におけるキリスト教の役割の重さについて考察し、現代ヨーロッパ世界におけるキリスト教の意味について関心をもつ。 【思】【関】	図版や写真により関心を高める。 プリント提出